



あけまして
おめでとうございませす。

昨年ハ勉強会、先進地視察など、多くの
方々にご参加いただき、誠にありがとうご
ざいませす。

皆様方からのご希望であった「行政から
の情報発信」として、先の勉強会・視察を
開催し、また、定期的な情報発信として
「上条報告」を配布させていただきませす
が、まだまだ量・質・内容とも十分なもの
とはいえず、皆様方お持ちの「上条集落
の保存」という大きなテーマに対して、ど
れほど貢献しているか多少の不安も抱いて
いるところませす。

ですが、今年も勉強会や各種研修会を企
画いただきませすので、ぜひご参加いただき
た、また、「どういった話が聞きたい」「ど
ういう保存地区を見てみたい」など、ご希
望等ございましたら、ぜひお聞かせくだ
りたく、お願い申し上げます。

本年もよろしく
お願いいただきませす。

小正月の行事

甲州市には古い土地柄のせいか、多くの行事が残
されてあり、特に小正月（一月十四日）に関する行
事は、伝承芸能も含め非常にバラエティに富んでい
ませす。塩山地区の民俗については、『塩山市史・神金
の民俗』にまとめられていませす、今号はそこに記
されてある神金地区の小正月行事について引用し紹
介しませす。

【キッカカンジ（木勸進）】

今日では正月七日の行事になつていませすが、かつて
は十一日に行われていた。現在キッカカンジを神金で
行つていませるのは、中子沢、藤原木、踊石、下小田原
（小田原橋組を除く）、一之瀬高橋のみであるが、以
前はほとんどの集落で行われていた行事である。

【中子沢】中子沢のキッカカンジは現在、塩山市内の
キッカカンジ一般と同じく正月の七日に行つていませす。
夕刻に子供たちが道祖神場に集まり道祖神、カゴウ
マ（籠馬）、ボウフリ（棒振り）などの役を決める。
道祖神役はゴヘイ（御幣）の御神体を持ち、カゴウ
マ役は竹の枠組に紙を貼った馬に乗り、ボウフリ役
はその馬方ということになる。決まると集落内を廻
ることになる。御幣の御神体が「ドーソジンサン、
ゴネンシ」と玄関に入り、その後皆で掛け声「商売
繁盛、ハッコミシヨ、ハッコミシヨ、お蚕ドツサリ
オオアタリ」を唱えながら、各家から御祝儀を貰い

歩く。ハッコミシヨとは福を掃き込む意味であるとい
う。大人も太鼓と双盤をならし、祝福を述べて回
る。以前は、婚礼のあつた家には、土足で座敷に上
がり込んで、祝福するのが習わしであつたとい
う。子供が生まれた家では、新婚の家同様御祝儀をひと
つきりはずんだとい
う。

【下切】敗戦を境に一部を除き消滅してしまつたが、
戦前までは、各集落ごとに十三日を中心に行われて
いた行事であつた。

まず十一日の朝、集落内の中老・青年・子供が、
新別当の家が集まる。ここで中老たちによつてご祝
儀額の割当が決められる。この一年間、お祝儀事
があつた家からははずんだ御祝儀を、一般の家からは
オブツコミ（お打込み）料として、一定額を割当て、
徴収するわけである。家ごとの額が決まると、
シャン、シャン、シャンとお手打ちを勇ましく行
う。子供たちは集落内の家を回り、檀紙、藁などの物
品を集め回す。この夜から、青年たちによるキッカ
カンジの準備が始まる。籠馬、千俵、棒振り、灯籠、道
祖神の御神体作りと忙しい。十三日に作るお小屋、
お山立てに使う飾り物等の製作にも取り掛からねば
ならなかつた。

十三日の夕刻からキッカカンジが始まる。別当の道
祖神役になる者が、大御幣の付いた御神体をもつて
先頭に立つ。大燈籠をもつた者がそれに続き、その
後が太鼓である。太鼓はその年に嫁取りを行つた新
郎が背負う。さらに鉦、子供の籠馬、千俵、棒振り、
と続き、そのあとに普通の灯籠をもつた人たちが同
伴した。この行列が、組内の各戸を回るのである。
特に新婚の家ではドンドヤセという打ち方で景気よ

く叩き、はやし立てた。各戸で御酒が振舞われ、賑やかな光景は十時過ぎまで続いた。

〔上条〕 今日では正月の七日に行われているが、以前は十一日に行われていたものであるという。その日の朝、子供がゴヘイを振り歩き、その後を女物の櫛神などを着た青年が、鉦・太鼓を叩きながら集落の各家を回る。祭り当番であるヤドの者が「道祖神」の札を配る。その折に、各戸では御祝儀を出した。小豆粥を振舞う家もあった。道祖神場には、御神酒やヤドで作られた御馳走が供えられ、人々には甘酒、蜜柑、お菓子などが振舞われる。ヤドは各戸を順次に回る仕組みになっていた。

【オコヤ作り】

お小屋作りは、一般には十三日（下小田原では十一日）の早朝から始まる。道祖神場に集落の人たち（以前は青年）が集まり、道祖神の丸石を安置した土台石の全体を囲うようにしてお小屋が作られ、周囲は杉の葉で葺かれる。

〔上条〕 お小屋作りは今日では一月七日である。早朝、まず山に行つて杉の枝打ちを始める。お小屋を葺くための材料集めということになる。たくさん枝が道祖神場に運ばれてくる。丸太で柱を立て、細木で枠組を作り、杉の枝葉で周りを葺き神殿（お小屋）ができあがる。神殿は氏神である金井加里神社を模したもので、大きさは一間四方もある。屋根に反りをもたせ、杉の枝葉で葺いた四方の壁も丁寧に刈り込み、神殿の脇には隠居部屋さえも作る。実に見事な出来栄である。完成すると回りに注連縄をはり、御幣を吊るす。

（以上『神金の民俗』より）

道祖神祭りは、全国一斉に、同じ日、同じ時間に行われるため、自分の地域以外の様子というのは意外と知らない場合が多いです。

市内の有名な道祖神祭りに「藤木道祖神祭太鼓乗り」があります。

太鼓乗りは、三基の大太鼓の上に役者が乗り、かけあい



で、市指定の無形民俗文化財です。一月十四日に行われますので、地元の道祖神祭りに参加していると、なかなか見られないのではないのでしょうか。

山梨県指定の伝承芸能は、市内に二件保存されています。「**田野の十二神楽**」はそのうちの二つです。大和町田野地区に伝わる神楽で、その名のとおり十二段の舞で構成されています。



今年の田野の十二神楽は、一月十六日（土）の予定ですので、見学しやすいと思います。

もう一つは、神金地区にも関係ありますが、「**一之瀬高橋の春駒**」です。

一之瀬高橋地区に伝わった春駒ですが、過疎化により永く演じられずにいました。しかし平成二十年度に保存会が再編され、以後積極的な伝承活動と上演を行ってきました。その労が認められ、二十年十一月には山梨県文化賞・奨励賞を受賞しました。

その春駒が、**一月十一日（月）に甘草屋敷**で演じられます。これは、イベントなどに参加された保存会の方々の、「なるべく元のお祭りに近いかたちで、夜に火を囲みながら楽しみたい」というご希望を受けて、昨年に引き続き開催するものです。

先述のとおり神金地区や大藤地区には、小正月の行事で「籠馬」がよく登場します。駒踊りが多いということは、それだけ馬と人とのつながりが深かったということなのでしょう。同じ駒踊りということで、籠馬との類似性も指摘されていますが、春駒は、唄に合わせて、勇壮かつ繊細な駒と露払い（馬子）の掛け合いで踊られます。この機会にぜひご覧いただければと思います。

